下水道

はじめよう、下水道のある暮らし③

「繋ぐ」
つな

下水道はみなさんが
接続してはじめて
その効果を発揮します。

「わが家の水は川を汚さない」
「海を汚さない」
「側溝に流れない」

接続した人は実感しています。

自分の決断が間違いでは
なかったことを・・・

下水道特集最終回は、
「わが家もそろそろ下水道に」
と悩んでいるあなたの
背中を押せるように
「繋ぐ」がテーマです。

問下水道課 ☎ 72-2507

わたしたちは、下水道に接続しなければいけないのでしょうか？

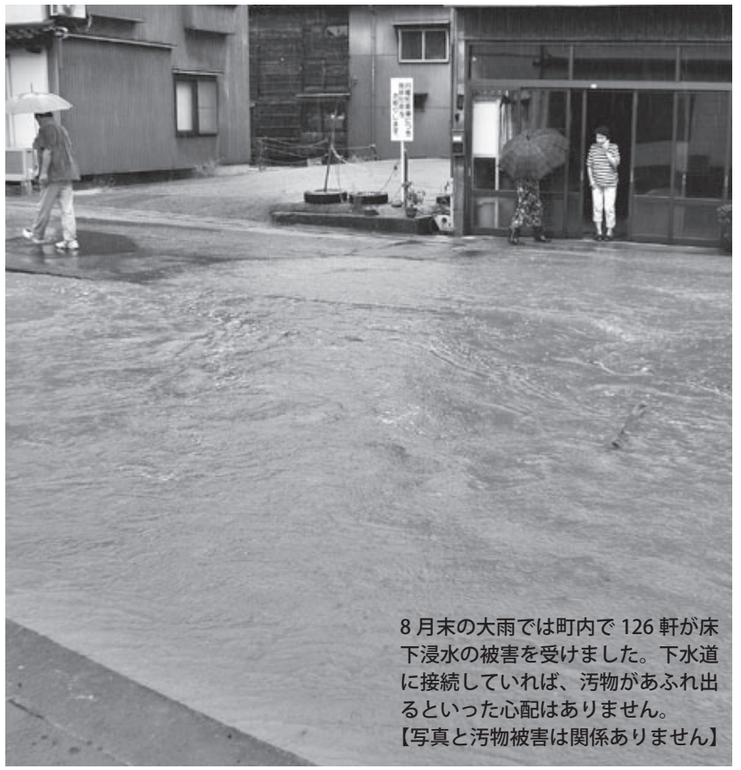
法律で定められている下水道への接続

今日、町が取り組んでいる下水道事業は、下水道法の定めによって進められています。下水道法第10条（排水設備の設置）には**「公共下水道の供用開始区域の土地の所有者、使用者は遅滞なくその土地の下水を下水道へ流入させる排水設備を設置しなければならない」**と定められています。また第11条の3（水洗便所の改造義務等）では**「処理区域内において汲み取り便所が設けられている建築物を所有するものは下水の処理を開始する日から3年以内に接続しなければならない」**となっています。

下水道の接続が浸水被害に備えることにも

近年は、異常気象による高潮や集中豪雨などが増えています。本年8月28日に能登町を襲った集中豪雨でも、多くの道路が冠水し、床下浸水などの被害が発生しました。今回の大雨では、床下浸水した地域にある家庭がくみ取り便所だったために水が便槽に流れ込み、汚物があふれ出るといった衛生的にも大変な被害が出ました。

下水道に接続することは街中や川・海をきれいにするだけではなく、浸水被害から守るということにもなりますので、みなさんの早期接続をお願いします。



8月末の大雨では町内で126軒が床下浸水の被害を受けました。下水道に接続していれば、汚物があふれ出るといった心配はありません。
【写真と汚物被害は関係ありません】

下水道に接続した人の声

下水道に接続している町民のみなさんに下水道について次の質問をしてみました。

①下水道へ接続したきっかけは？
②接続して良かったことは？
③使用料についてどう思いますか？
④下水道事業に望むことは？

Yさん（宇出津地区・女性）

①せっかく整備されたので、広報とかも見てつながないとダメかなと思ってつないだ。昔から住んどるこの町が好きやし、子どもたちが帰ってきたくなるようきれいな町にしていきたいと思う。
②くみ取りから水洗にしたおかげで年寄りにとっては楽になった。
③使う分払うことは当たり前やし、一人暮らしなのでそんなに苦にならない程度。
④周りの人にもっとつないで欲しい。側溝もがたがたなので、整備して欲しい。

Kさん（笹川地区・男性）

①単独浄化槽では処理しきれなくなったので接続しようと思った。
②側溝に汚水が流れないので、臭いがなくきれいになった。たまに釣りをしたりするが、川に鮎が増え汚いアオモが減った。
③安くはないが使用する事で費用がかかるのは当然やし、料金以上の効果があると思う。
④料金等現状のままで今後も管理していってほしい。

Kさん（柳田地区・男性）

①店の改装がきっかけです。
②くみ取りから水洗便所になった事や、街中や川の水がきれいになった様な気がする。
③水道料はそんなに気にならんけど下水道は意外と高いかな？使っているので仕方がない。
④もっと接続を推進してほしい。

下水道工事を予定している方へ

助成金や資金融資のあっせんをご利用ください。

下水道への接続を促進するための補助として、助成金制度と資金融資のあっせん制度があります。接続工事を考えている方は、ぜひご利用ください。なお新築工事は対象になりません。

【助成金】

下水道接続工事を施工された世帯に対し、次の金額を助成します。

①生活保護世帯
50万円以内（千円単位）
②町民税非課税世帯
工事費が50万円以上…**10万円**
工事費が50万円未満…**工事費の20％**
（1万円単位）
③そのほかの世帯
工事費が50万円以上…**3万円**
工事費が50万円未満…**工事費の6％**
（千円単位）

【資金融資のあっせん・利子補給】

資金融資のあっせんとは、下水道工事のための借り入れに対し、100万円までは町がその利子分を申請により補給する制度です。あっせんを受けるためには、あっせん申請書を役場へ提出→審査後役場より決定通知書が届く→決定通知書を持って借入を希望する金融機関へ→金融機関の審査を受け→工事完了後借入→役場より支払利息分（5％以下分）を補給することになります。

【下水道工事は指定工事店で】

下水道への接続工事は、町に登録された「下水道指定工事店」でなければ行うことができません。工事が一定の技術基準に沿って正しく行われないと、管内に汚物などが詰まりやすくなるなど悪い影響を及ぼすことがあるためです。

また、接続工事の費用は各家庭ごとの事情により大きく異なります。見積書を取り内容をよく確認するなど、工事店と十分に打ち合わせをしてから工事にかかるようにしてください。

第９回全国和牛能力共進会に石川県代表として出場

５年に１度開催され「和牛のオリンピック」といわれる全国和牛能力共進会。昭和 57 年に福島県で開催された第４回大会を視察した柳田地区の畜産農家は「自分たちも全国大会に出場したい」と考え、出場資格である「和牛改良組合」を結成し認定を受けた。それ以来柳田村和牛改良組合として毎回全国大会に出場し「能登牛」のブランド化の一翼を担った。３年前、珠洲市和牛改良組合と合併し能登和牛改良組合となり、その組合長となったのが上町の中瀬晴夫さんだ。

現在は 30 頭ほどの母牛を飼い、小牛を繁殖させて販売している中瀬さんだが、もともとは 15 頭ほどの牛を飼いながら生シイタケや栗の栽培などをしていた。本格的に畜産の道に進んだきっかけは息子である英巳さんの一言だったという。「学校を卒業して家業を手伝うことになり『牛ならやる』というので牛舎を建てた」ということだ。

そして、今年 10 月 11 日から 14 日にかけて鳥取県で開催された第９回大会に、中瀬さん所有の「ささふじ号」が石川県代表に選ばれ出場した。

ささふじ号は、父が「藤平茂（岡山県真庭）」、母は笹川の山口善一さんから購入した「ささ 23 号」という血統だ。「親の能力（子どもの肉質）が高いので雌が生まれたら残そうと思っていた」と話す中瀬さん。雄の出産が続いてやっと生まれた雌牛が「ささふじ号」だった。

７月４日に行われた県予選では、ほかの牛よりも体格が小さいながらも見事県代表に選ばれた。「能登にも全国大会に出場するほどの和牛がいるということをアピールする機会」ととらえ、大会までの３カ月間に少しでも体が大きくなるよう工夫を重ねたが、大会での結果は振るわなかった。

「石川県は和牛の数が全国的にも少ない。全国の先進地に比べ改良のスピードも遅いし、大会のためだけに生産する余裕がないから農家の意識も低い」と話す中瀬さんが今もっとも心配していることが畜産農家の減少だ。特に牛を肥育する農家がピーク時の３分の１にまで減少しており問題は深刻だ。農家の減少は能登牛の減少につながり、「能登牛を食べたくても肉がない」状況だという。

「これからはほかの仲間と一緒に後継者問題にも取り組んでいきたい」と考えている中瀬さんだがその具体的な答えはまだ見えない。

「ほかの農業と比べても和牛は安定しているし将来は明るい」と言い切る中瀬さんの「能登牛」を守るための手探りは続く。

能登和牛改良組合長

中瀬 晴夫さん（58 歳・上町）

オーストラリアで みつけた僕らの可能性

平成19年度 能登町中学生海外派遣事業

12人がオーストラリアへ！

未来を担う中学生を海外へ派遣し、国際的な感覚と実践力を身につけてもらおうと、町が毎年実施している海外派遣事業。今年度は新谷信之団長、栂佐紀子指導員以下団員12人がこの海外研修に参加しました。研修は7月25日から8月3日までの9泊10日の日程で行われ、団員たちはさまざまな体験学習を通して現地の子どもたちと交流を図りました。

ホームステイで学校に通う

団員たちが訪問したゴールドコーストのオクセンフォードプライマリースクールは、日本でいう小学1年生から中学1年生までが通う学校です。日本とは一風変わった自由な校風に戸惑いながらも、団員たちは海外での学校生活を満喫しました。普段の授業のほかにもライフセービングの講習を受けたり、週末にはホームステイ先の家族との楽しい思い出も作ることができたようです。

学校訪問最終日には、ホストファミリーも全員学校に集まってお別れパーティーが開かれました。団員らは日本の文化を身近に感じてもらおうと、自分の得意なものや日本の歌などを感謝の気持ちを込めて披露しました。書道や折り紙、福笑いなども紹介され大変喜ばれたそうです。

未来へつながるチャレンジ

この研修は参加者全員が同じ経験をするのではありません。それぞれが日本語の通じない環境に置かれ、英語やジェスチャーで話す相手に気持ちを伝え、理解し合うことに挑戦するのです。そして、生活を共にしたホストファミリーと本当の家族のような信頼関係を築いて帰国することができました。

今回参加した団員たちは、この貴重な体験から自分たちの未来につながる何かを感じ取ることができたのではないでしょうか。

海外研修報告会

いちばん大切なのはこれからのみんな

● 12人の生徒たちが得たもの

9月25日、柳田教養文化館で海外研修報告会が行われました。生徒たちは英語を交えて1人ずつ体験談を発表しました。また、各グループごとにオーストラリアの物価や生活習慣、学校生活での風習の違いなどについてユーモアを交えながら報告しました。おわりには保護者から研修によせた感想が発表され「子どもの成長が見えて感動を覚えた」「この事業が長く続くことを願いたい」という声が聞かれました。

▲持木町長ら関係者にそれぞれの体験談を発表する生徒

●真価が問われるのはこれから…

「行くことが目的ではない。帰ってきてからが本当の評価である」。引率した先生が話したその言葉どおり、勇気を出して行動し得られたものは生徒たちの生活にどれだけの影響をあたえることができるでしょうか。ホストファミリーと自分の家族への感謝の心を延べて流した、団員たちの涙が印象的な報告式となりました。

▼「帰国後は研修の話題で会話が弾みました」と語った保護者

セルフ スタディー スマイル

合言葉は3つの「S」

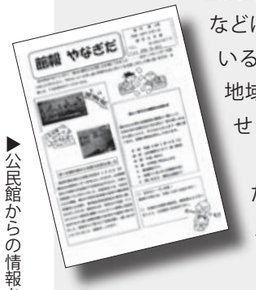
こうみんかんつうしん 公民館通信 第5号

～柳田公民館編～

平成14年に旧柳田小学校の校舎を利用して設置され、現在は柳田山村開発センター内に事務所が置かれている柳田公民館。柳田分館を合わせ、年間を通じてさまざまな行事を行っています。

公民館で開催している行事などは、公民館が発行している『館報やなぎだ』で地域のみなさんにお知らせしています。

今月は地域に根ざした活動を目指す柳田公民館を紹介します！



▶公民館からの情報を掲載している「館報やなぎだ」

能登町立柳田公民館
（柳田山村開発センター内）
字柳田仁部54　☎・FAX 76-0313
■地区世帯数 569　■人口 1,775

柳田分館
字柳田主部91
☎ 77-0021（域内のみ）

公民館とは明るく楽しい暮らしのために生涯学習に関する情報を提供し、一緒に学ぶ仲間が集い合う場所です。また、世代間交流の場として、新しい発見の場としての役割も担っています。平成14年に誕生した柳田公民館では12の町内を対象にさまざまな行事や趣味の講座を行っています。公民館では地区の各種団体長で構成された公民館運営審議委員会で年間行事の計画について話し合われ、青壮年団や婦人会、老人会などの協力を得ながら行事を運営しています。柳田分館と合わせて各教室やサークル活動なども随時行われています。

米粉を使って「蒸しパン」と「チヂミ」を作った親子クッキングの様子

柳田公民館ではグラウンドゴルフやゲートボールなどのスポーツ大会をはじめ、料理教室や囲碁大会など住民のニーズに合わせた行事を進めています。今年初の試みとしては「文化講演会」の企画を予定しているそうです。

また季節に応じたイベントも開かれています。中でも8月に開催される「納涼祭り」は柳田体育館を会場に盆踊りやビンゴゲームなどで大いに盛り上がります。今年は地域のみなさんの協力で設けられたわた菓子や金魚すくいコーナーが好評で、柳田キリコ太鼓も祭りに華を添え盛大に開催されました。

1月には児童を対象に柳田教養文化館で百人一首を楽しみました

一緒にはじめよう！
～公民館で楽しめるこんな教室～

教室名	開催日	時間
歴史教室	随時	適宜
文化財見てあるき	随時	適宜
囲碁教室	毎週土曜日	9:00～

情報を提供します！

公民館の教室のほかにも、スポーツや趣味のサークル活動などについての情報提供をします。

何かはじめてみたい、何か楽しんでみたいと思っている人はぜひ公民館までご連絡ください。

芸術の秋にちなんで毎年11月に開催している柳田地区文化祭。芸術作品を集めた展示会や芸能発表会が毎年行われていますが、今年度は町文化協会主催の文化祭が11月3日(土)・4日(日)の日程で柳田地区を会場に開催されることもあり、例年通りの文化祭の開催は見送られることになりました。

町文化協会文化祭の作品展示会場は両日ともに柳田山村開発センター・柳田体育館となっています。また4日は柳田小学校で踊りや歌などが披露される芸能発表が催されます。出演するもよし、観て楽しむもよし。ぜひ会場まで足を運んで楽しみましょう。

今年の町文化協会の文化祭は柳田地区が会場です（写真は昨年の様子）

Report

能登町防災総合訓練

3・25を忘れない

大地震と大雨洪水を想定 訓練に1300人が参加

3・25を忘れるな―

能登半島地震後初の大規模な防災訓練「第1回能登町防災総合訓練」が10月21日、宇出津新港緑地公園を主会場に実施された。

訓練には町、県、警察、消防などの関係機関のほか、消防団、女性防火クラブ、町内会・区長会や婦人会など町内25の団体と地域住民など約1300人が参加、災害時の備えや対応について確認した。

今回の訓練は3月25日に発生した能登半島地震や8月28日に発生した大雨被害の経験を教訓として万一に備えようと行われた。

能登半島地震の経験を教訓に
被災地から災害に強い町へ―。
地震後初めて行われた
町防災総合訓練をカメラが追った。

3

1

2

共助 地域を守る

1 倒壊した建物からの救助訓練では、消防団員が足場を確保しながら瓦を割り、迅速かつ安全な救助方法を経験した
2 土のう作成・積み土のう工法訓練では、消防団員や役場職員が3,000袋以上の土のうを作った
3 訓練の最後に実施された消防団による一斉放水。16分団がそれぞれ火消しの心意気をみせた

『午前7時ごろから能登地方を中心に局地的な大雨、午前8時には能登半島沖を震源とするマグニチュード6・9の地震が発生。能登町では震度6弱を観測し、多数の家屋が倒壊して火災が発生。沿岸には津波警報が発令された―』

午前7時35分、町長は役場内に災害対策本部を設置し、関係機関に出動を要請。現地災害対策本部が設置された宇出津新港では、関係機関から被害状況や訓練経過が次々と報告された。

鍵は「自助」「共助」「公助」 災害の記憶を風化させるな

大規模な災害時、被害を最小限に抑えるためには「自助＝自分の安全を自分で守る」「共助＝自分たちの地域は自分たちで守る」「公助＝行政機関、公共企業の応急対策活動」それぞれが災害対応能力を高め、連携することが大切だといわれている。今回の防災訓練でも「自助」「共助」「公助」それぞれの対応能力を高める訓練、連携を強化する訓練が繰り広げられた。

訓練に参加した消防関係者や住民は、従来の訓練にも増して真剣に、そして緊迫感をもって訓練に臨んでいた。3・25（能登半島地震）の記憶を決して風化させることなく、訓練で得た高い防災意識を継続させていくことが大切だ。

9

8

7 地域住民が参加したバケツリレー消火訓練。たくさんの住民が一丸となってバケツを運び、火を消した
8 火元を扱う機会が多い女性を対象に行われた消火器初期消火訓練
9 炊き出し訓練では、婦人会のみなさんが手際よくパックにご飯を詰めた

7

自助 自分を守る

5

6

公助 生命を守る

4 5 県防災ヘリ「はくさん」による海上つり上げ訓練と救急隊引継訓練。防災ヘリは、ほかにも情報収集活動や通信伝達訓練なども行った
6 車両事故の被害者に対して迅速に応急手当をし、救急隊に引き渡す宇出津総合病院医療チーム

4

Fire Fighting Spirits

10月

まちの出来事

古代米稲刈り体験
大変だけどおもしろい！

米づくりを通して地域の自然に親しもうと10月17日に真脇小学校の4・5・6年生と小木小学校の6年生が真脇遺跡体験村で古代米の稲刈りに挑戦しました。大きく育った緑米は春先に児童たちが体験村の水田に手植えしたものです。児童たちは鎌を手に、地元ボランティアのみなさんに教わりながら作業に汗を流しました。慣れない手つきながらもあっという間に刈り取り、束ねた稲穂は「はざ」にかけられていきました。

生命力が強く荒地でも丈夫に育つというこの古代米。児童にとって縄文文化と農作業の大切さを学ぶ一日となりました。

秋空の下、みんなで協力して作業に取り組みました

武藤支部長に合わせ祈願する杜氏のみなさん

能登杜氏例大祭
今年の酒造りの成功を祈願

本格的な酒造りシーズンを前に、能登杜氏組合能登町支部の秋の例大祭が10月5日、松波の松尾神社で行われました。神社には組合員約20人が集まり、酒造りの神様に今年の酒造りの成功を祈願しました。

組合員らは、例大祭のあと開かれた講習会で、金沢国税局の鑑定官から今年の酒造りの注意点などを学びました。

日本4大杜氏のひとつである「能登杜氏」は、秋から春にかけて、県内はもちろん遠く関西地方や東海地方など日本各地の酒蔵に出向き日本酒を造ります。

親子ふれあいフェスタ
親子で過ごす大切な時間を

▶子どもたちの大きな夢が詰まっているようにふくらんだバルーン

▼イベントの最後に舞い上げられた色とりどりの風船

町の保育所・保育園の園児が一同に介するイベント「親子ふれあいフェスタ」が10月21日に柳田植物公園で開催されました。このイベントは、親子の触れ合いの場を提供し、ほかの保育所・保育園の園児や保護者らの交流の輪を広げることを目的に町保育士会と健康福祉課が主催したもので、会場には親子約900人が集まりました。

園児たちはこの日のために練習してきた歌や踊りを元気いっぱいに披露したり、親子でゲームを楽しんだりしました。また、ステージには人気キャラクターも大集合して、子どもたちはとても喜んでいました。最後には全国児数と同じ534個の風船を空に舞い上げ、子どもたちの元気な成長を願いました。

人権擁護委員感謝状贈呈・委嘱状交付式
人権思想を広げるために

人権擁護に関わる活動を行う人権擁護委員。法務大臣の委嘱を受け新たに委員となった仲谷章さん（天坂）と、再任の金七えり子さん（松波）への委嘱状伝達式が10月9日に能都庁舎で行われました。また、長きにわたり委員として尽力し、このほど退任した上出八郎さん（四方山）と西又茂男さん（柳田）には感謝状が贈られました。持木町長は退任された2人に感謝の言葉を述べ、委嘱された2人には「安心して住める町づくりに協力願います」と激励しました。今回委嘱された2人の任期は3年間、平成22年の9月30日までとなっています。

前列左から西又さん、上出さん、後列左2人目から金七さん、仲谷さん

御霊前で追悼の言葉を述べる丸山遺族会会長

戦没者追悼式・慰霊式
語り継ぐ平和の礎

日清戦争以来の1,455柱の霊を慰める能登町戦没者追悼式と慰霊式が、10月4日に内浦第2体育館で行われました。追悼式では、持木町長が「繁栄の影に尊い犠牲があったことを次の世代に語り継ぎます」と式辞を述べ、戦争で亡くなった人の冥福を祈り、平和への誓いを新たにしました。

追悼式のあとに行われた遺族会連合会が主催する慰霊式では、参列者が次々と玉ぐしを捧げ、御霊を慰めました。慰霊式の終わりには、遺族会会長の丸山勝守さんが「今後も町の発展のために貢献したい」と霊前に誓いました。

神和住純杯エンジョイテニスフェスティバル
テニスは楽しいスポーツ！

能登町と縁のある元プロテニスプレーヤー神和住純氏を招いて行われる神和住純杯エンジョイテニスフェスティバル'07が10月6･7日にかけて能都健民テニスコートで開催されました。「テニスを楽しむ」を合言葉に開催されるこの大会は、プロ選手から指導を受けたり一緒に試合が出来ることが特徴で、県内外からたくさんの人が集まりました。

参加者はテニス教室に参加したあと、プロの華麗なプレーを観戦したり、仲間と交流を深めたりと思い思いにテニスを楽しんでいました。

初心者テニス教室で指導する神和住純さん

好調な売れ行きで接客に追われる生徒たち

青翔高校が修学旅行で能登をアピール
長崎で伝えた元気な能登

能登青翔高校の2年生が10月2日から4日までの日程で体験学習を取り入れた修学旅行を行いました。3日、長崎県佐世保市のハウステンボスで町の特産品を紹介するなど、能登半島地震からの復興をアピールし大きな成果を上げてきました。

ハッピ姿に元気な笑顔で現地入りした生徒たちは、数カ月間訓練した接客技術を生かし「きゃらぶき」などの加工品や「いしり」などを販売しました。用意した品物があっという間に完売し、好評を得たこの体験型修学旅行。生徒にとっても地域に貢献でき、自分の将来につながる良い経験となったようです。